

平成21年 6月10日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：平成19年度～平成20年度

課題番号：19820049

研究課題名（和文） 中世韻文学における句題の研究

研究課題名（英文） Studies in “Topic Poetry(Kudai)” in Middle Japanese poetry

研究代表者

小山 順子 (KOYAMA JUNKO)

天理大学・文学部・講師

研究者番号：20454796

研究成果の概要：

従来取り上げられることが少なく、等閑視されてきた室町時代の句題和歌について、作品を整理し句題和歌史上に位置づけた。また、漢詩句題にとどまらず、古典和歌の一句を題とする仮名句題、古典作品の一部を賦物とする詞連歌とも関連づけ、研究の方向を示した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
19年度	700,000	0	700,000
20年度	720,000	216,000	936,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,420,000	216,000	1,636,000

研究分野 人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：中世文学 和歌 連歌 句題 和漢比較 古典

## 1. 研究開始当初の背景

句題研究の対象は、平安時代から鎌倉時代、または近世の作品を対象に限られ、室町時代後期の作品についてはほとんど対象となっていなかった。また、古典作品の詞を賦物とする連歌作品や、古典和歌の一句を句題とする仮名句題については、その存在についての認識自体がほとんど無く、本研究によって初めて本格的に取り上げられたと言ってよい。

## 2. 研究の目的

句題の問題は和歌・漢詩・連歌と、それぞれのジャンルで個別に扱われてきた。しかし本研究では韻文学全体から句題を扱い、中世における句題の在り方を、総体的に捉えることを目的とする。

## 3. 研究の方法

句題が最も積極的に用いられた室町時代後期を主な対象とする。それによって、和歌・連歌の双方を横断して句題を考察することが可能となる。但し、室町時代後期の句題和歌作品は未整理・未紹介のものが多いため、まずは資料を収集し、整理した。翻刻を紹介するとともに、文学史上に位置づけた。

## 4. 研究成果

従来、研究の俎上に載せることの少なかった室町時代の句題和歌、さらには詞連歌を取り上げ、その存在意義を明らかにした。また、和歌と連歌における句題の問題を、一つの線上で結び、見取り図を描いたことで、今後の句題研究に方向を示した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

①小山順子「室町時代の句題和歌と三条西実隆」『龍谷大学仏教文化研究叢書』24 巻、pp401-425、2008 年、査読有

②小山順子・竹島一希「『伊勢物語詞連歌』翻刻と紹介」『京都大学国文学論叢』20 巻、pp47-63、2008 年、査読有

③小山順子「『新古今集詞連歌』考察—和歌句題、続歌と連歌—」『京都大学国文学論叢』19 巻、pp36-55、2008 年、査読有

④小山順子・竹島一希「『新古今集詞連歌』翻刻と紹介」『京都大学国文学論叢』18 巻、pp50-64、2007 年、査読有

[学会発表] (計 1 件)

①小山順子「藤原良経の本歌取りにおける否定表現—『障子書度百首』を中心に—」和歌文学会関西例会、2007 年 12 月 1 日、神戸松蔭女子学院大学

[図書] (計 2 件)

①京都大学国文学研究室中国文学研究室『良基・絶海・義満等一座 和漢聯句訳註』臨川書店、2009 年、全 250 頁

②京都大学国文学研究室中国文学研究室『室町前期 和漢聯句作品集』臨川書店、2008 年、全 325 頁

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小山 順子

天理大学・文学部・講師

研究者番号：20454796

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者